

令和4年1月6日実施分

令和3年度 家庭教育充実促進事業

「キャッシュレス時代のお金の使い方」



講師：土居 由紀子さん（キッズマネーステーション認定講師）



♪こんなことをお話いただきました♪

・スマホやカードで簡単に買い物ができるキャッシュレスの時代。これからの子どもたちはキャッシュレス社会を生きていきます。また、改正民法で成年年齢の引き下げがあり、18歳で消費者として主体的に判断しなければならなくなっている状況もあります。お金の有限性について見えにくくなっている今、金融リテラシーを保護者と子どもで身につける機会としました。



★子どもたちに、「クマさん」「パンダさん」の寸劇をまじえながら、「お金」とは欲しいものと取り換えられる「互換性」の意味を持つということについて理解してもらいました。

★子どもたちが現金と電子マネーを持ち、いろいろなアトラクション（お店に行ってものを買う、有料イベントに参加する、行きかえりはもちろん交通費が必要です）を自分で選んでお金を使うワークをしました。電子マネーをピッ！とチャージすることもあります。



★また、途中、「帰るお金がなくて困っているお友だちがいたらどうする？」「お友だちが電子マネーでお菓子を買ってあげるよと言ってきたらどうする？」など様々なケースを子どもたちに考えてもらいました。お金をやむを得ず、お友だちと貸し借りしたときなどは保護者に報告することが必要など、アドバイスも交えました。

★ワーク内で帰りに交通費がなくなってしまう子が続出しました。子どもたちの感想は「いくら使ったかわからなくなった」「ピッ！（と電子マネーにチャージするのが）が楽しくてどんどん使ってしまった」「思い出したら使いすぎていた」といったものでした。このワークは見えないお金はついどんどん使ってしまうことを体感してもらうことがねらいです。お金の使い方は最初からうまくできなくて当たり前。トライアンドエラーでお金に対するセンスは磨かれ消費者として視点は培えます。



★こうしたワークを通じて、子どもたちに電子マネーのメリット、デメリット、を体験してもらいました。そして、「お金」とは何か、について子どもたちに考えてもらいます。お金は「はたらく」ことでもらえます。「はたらく」というのは人の役に立つ

たり、人によろこんでもらうことであり、そうしたモノやサービスの対価として得られるのが「お金」です。「ありがとう」という感謝の気持ちといっしょに交換するのがお金である、ということ子どもたちに伝えました。これは現金であろうと、電子マネーであろうとかわらないお金の原点です。

★最後は保護者対象におこづかいの渡し方や考え方の紹介、例えば「ニーズ&ウオンツ」で考えると整理しやすい、(ニーズというのは洋服、文房具、交通費、習い事の月謝等必要なもの、ウオンツは欲しいものということで分けて管理すると金銭感覚が育つなど) や、単に貯めるだけでなく欲しいと思うものを買うということは、子どもにとっても大人にとっても大事で、正しく使うことで日本経済が活性化するという点を解説いただきました。しめくりは、子どもたちから保護者に対するメッセージ付きハートの折り紙の紹介で終わりました。学び、のみならず保護者と子どもの温かい交流ができた講座でした。

♡アンケートより♡

- ・楽しく学ぶことができました。身近なお金のことについて使い道や大切なこと、わかりやすかったと思います。
- ・とてもわかりやすかったです。子どもにとっては1時間半程がちょうど良い長さかと思いますが、もっといろいろなおはなしも聞きたかったです。また参加したいと思います。
- ・ゲームで子どもたちが失敗できたのが良かったです。
- ・電子マネーは使ってしまうことが体感できたようでよかったです。
- ・わかりやすかった。途中、ゲーム等で楽しく学べた。
- ・とても楽しく学べたと思います。「気づき」があってよかったです。

♡子どもたちの感想より♡

- ・現代はキャッシュレス時代と便利な世の中になっているけど、その一方で使い方を誤ったり、過度に使ったりするとトラブルが生じる原因になると知ることができました。
- ・キャッシュレスのことを教えてくれてありがとうございます。またこのようなきかいがあれば、さんかしたいと思います。
- ・あらためてお金の大切さがわかった。
- ・お金のことを教えてくれてありがとうございます。